

ちょっとひと言!!

市民の声



広報委員が市民の皆さんに、行方市に寄せる思いをインタビューしました。



●私は行方市に要望したいことがあります。それは、子育てしやすい環境・支援の充実です。近隣の市ではとても充実しているそうです。環境でいえば、大きな公園や支援センター。支援でいえば、第3子以降の子への手当等です。行方市にもありますが、利便性や魅力に欠けます。私も子育て中ですが、ほかの市への転居も考えたほどです。少子高齢化とうたうならば、子育てしやすい環境・支援をもう一度見直してはいかがでしょうか。

(30代・女性)

●夕日に映える紫峰筑波とキラキラ輝く霞ヶ浦の景色を眺め、豊富な農水産物を食して生きている。この基盤が長期間変わ

らない行方が私は好きです。しかし社会情勢の変化は市にも大きな変革を迫ります。基幹産業である農業は外せません。大規模な機械化農業を展開し安定した収入で若者の定住化に繋ぐ事や、高齢化率の数値から重荷と捉えられがちな高齢者が憚る事なく生きる道筋を大家族制の中に再発見出来ないものかと考えています。

(60代・女性)

●学校の統廃合が完了したようですが、これからは学校を核としたコミュニティづくりが大事であると思います。子どもからお年寄りまで顔の見える地域づくり、子どもたちが元気で明るく育つまち、お年寄りが安心して暮らせるまち、生活弱者にやさしいまちづくり、行方市はそんなまちづくりを目指してもらいたいと思います。

(30代・女性)

●この地に嫁いで早38年が経った。昔から行事があると、その都度、喜んで参加してきました。活気あふれる行方市が好きでした。今は親の世話に追われ、楽しいとか嬉しいとかを感じていない暇などない状況です。だからこそ思いやりのある人が多い行方市に対し、全議員さんの今持っている力を思う存分發揮して行っていただきたいと思っています。一人一人の市民の声をよく聴く

耳を持ち、それを行動に起こしてください。国会のように眠り顔では困ります。(50代・女性)

●行方市は何でもあるが、特色が無いとよく言われる。今、情報過多の時代であり、日本を取り巻く国際情勢も、厳しい現実も理解できる。しかし、このピンチをチャンスに変えていかなければならない。予算があれば予算を、予算が無ければ知恵を、知恵が無ければ体を使うしかない。言いたいことは全身全霊を活用して事に当たってもらい、市民の負託に応えていただきたい。若い市長さん、議会の皆さんに期待します。豊かさを感じられる行方市をつくってください。お願いいたします。

(60代・男性)

●二〇一四年発表の消滅可能性都市に登場した行方市。ここで生まれ育った私には何とも寂しく衝撃的なニュースでした。しかし最近よく耳にするAIの発達とIT技術は働き方に変化をもたらし、どこでも仕事ができるようになり、自然豊かな環境で職住し保育や介護の施設にも近接した形で働ける時代がきつと来ます。その折には若い世代が回帰したくなる魅力を備えた行方市になっっているよう、未来ある街づくりを目指した議会運営を期待します。(40代・男性)

編集後記

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。輝かしい新春を迎え、市民の皆様方にはまずご健勝のこととお喜び申し上げます。現在私どもを取り巻く社会環境は、多様化、複雑化し先の見通せない不透明な状況にあります。その様な中ではありますが、市民の皆様の声を反映し、市民の皆様が望むまちづくりを全市一丸となつて進め、次の世代、さらに次の世代へと繋いでいく事が使命であると考えます。議会もなめがたテレビを使つて3月に試験放送、6月より本放送を行い、開かれた議会を目指すとともに、市民の皆様の意見を聞ける機会を設けたいと思っております。

昨年策定されました総合戦略書を元に、よりよいまちづくり実現のためには、市民参画、参加によるまちづくりが必要です。今後とも皆様方のご理解、ご指導をいただき、よりよいまちづくりに努めてまいります。むすびに皆様のご多幸、ご健康を心よりご祈念申し上げます。

(小野瀬忠利)



議会だよりの
ご意見・ご感想を
お待ちしております。

広報委員会

委員長	正利 信守 一郎
委員	浩忠 正 仙一 孝太郎
副委員長	子瀬 橋内 崎部
委員	土小 高宮 藤阿
委員	〃
委員	〃
委員	〃